

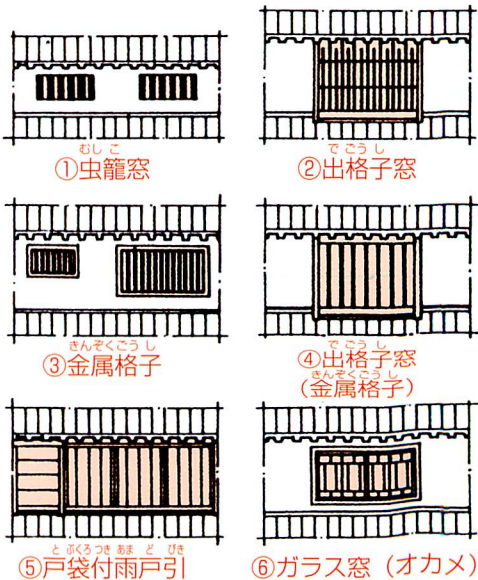
## 建物概要

- 構造 / 木造2階建本瓦葺
- 延床面積 / 1階：96.53㎡  
2階：68.83㎡  
合計：165.36㎡
- 整備手法 / 街なみ環境整備事業（国土交通省）

## 龍野の町家 2階開口部方式の分類

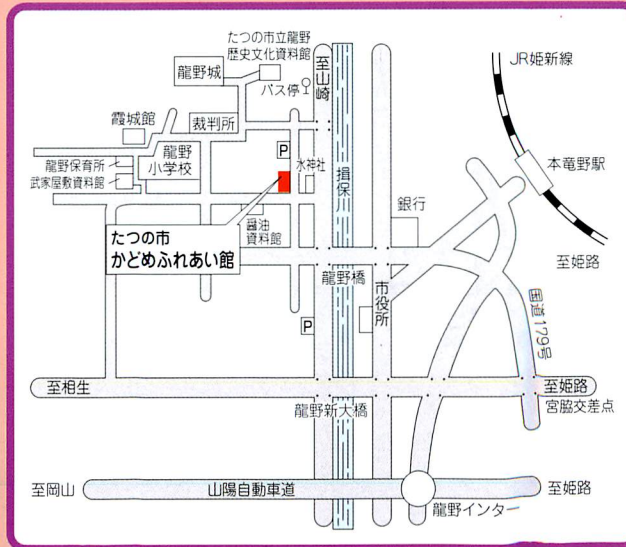
龍野の町家の2階開口部方式については、次の6種類に分類されます。

- ① 虫籠窓 最も古い方式
- ② 出格子窓 19世紀初期にあらわれています。
- ③ 金属格子を用いた虫籠窓
- ④ 金属格子をはめ込んだ出格子窓
- ⑤ 戸袋付雨戸引 明治初期より用いられたと考えられます。
- ⑥ ガラス窓 ガラスを亀の甲状に組み合わせたガラス窓の採用は大正に入ってからのことです。



## 利用案内

- 開館時間 / 午前10時～午後4時
- 休館日 / 月曜日（祝日と重なった場合は翌日）  
祝日の翌日  
年末年始（12月29日～1月3日）  
その他、臨時休館あり
- 入館料 / 無料
- 使用料 / 無料
- アクセス
  - ◆ 新幹線 / JR姫路駅・相生駅より車で30分
  - ◆ 在来線 / JR姫新線本竜野駅より徒歩15分
  - ◆ 山陽自動車道 / 龍野ICより車で10分
  - ◆ 中国自動車道 / 山崎ICより車で30分



## ■ 使用申込み

たつの市都市建設部町並み対策課  
〒679-4192 兵庫県たつの市龍野町富永1005-1  
☎0791-64-3167(直通)

# たつの市 かどめふれあい館



〒679-4172  
兵庫県たつの市龍野町上川原98番  
☎0791-62-5155



# かどめふれあい館概要

## かどめふれあい館の復原と公開

龍野は18世紀から昭和の戦前まで、約200年間にわたる町家が残っており、それらが多彩な様式をもっていることが大きな魅力となっています。かどめふれあい館の復原に当たっては、明治期に建てられた町家の特徴である金属製の丸格子を踏襲するなど、龍野文明開化を感じさせる建物となっています。

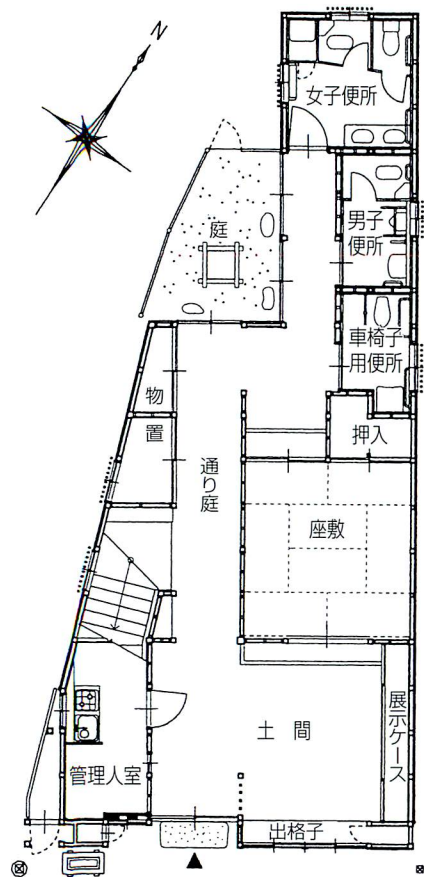
このかどめふれあい館は、地域交流やまちづくり学習の場として活用されることを目的としています。

## 建物のあゆみと特徴

この建物は、明治後期に建てられた町家を、現在地で原形に沿って再建したものです。元の町家は「西播金融」の店舗として使用されていましたが、それ以前のことは不明です。龍野町上川原の通称「かどめ」一帯は、緩やかに湾曲して町家が建ち並ぶため、町家の敷地が台形になっています。したがって、平面は通り庭（土間）が敷地のゆがみを吸収するように工夫されています。また、外観を特徴づけている2階の金属製の丸格子や黒漆喰の塗り壁は、いずれも龍野町の明治期の町家に多く用いられた形式です。その大胆な意匠は目立ちますが、当初の形状を忠実に再現したもので、明治期の商家の華やかな表構えの一端がうかがわれます。1階は、元々は左端の戸袋から板戸を右端まで引き出す、いたって開放的な店構えでした。この形式も龍野の町家に特有です。広い店先には、間口いっぱい渡された暖簾がたなびいていたことでしょう。



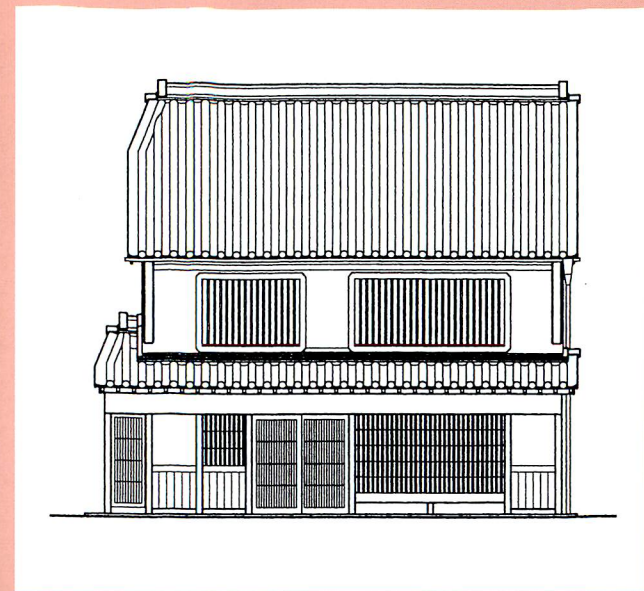
## かどめふれあい館 1階平面図



## 復原にあたって

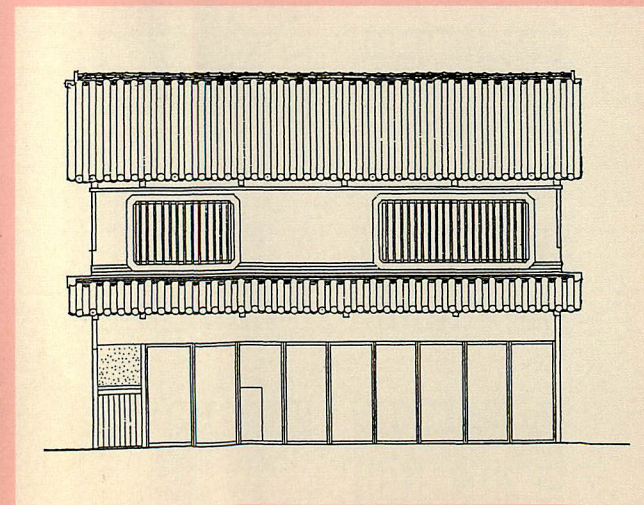
1階の間取りの基本構成は、当初の平面形式を基本として土間まわりと裏手に必要な諸機能を配置しました。下屋庇の軒下に渡された太い桁は、当初の店構えの形式から受け継いだものですし、伝統的な町家に特有の木部の色付けも再現しています。2階は、種々の会合などに便利なように室内は新しくレイアウトしていますが、外観は金属製の虫籠窓に黒漆喰、軒裏の出桁など、元の町家の姿を復元的に再現することで、明治期の町家の堂々たる表構えを再生させました。

また、1階の土間、通り庭については、可能な限り段差のない造りとしています。



かどめふれあい館立面図

## 旧建物復原立面図



監修 京都府立大学環境デザイン学科  
教授 大場 修